

フクダ電子は医療機器専門メーカーとして皆さまの健康な毎日を応援いたします。

<p>1月</p>  <p>タンチョウ 撮影：北海道 釧路市</p> <p>北海道に一年中生息している、1952年に国の特別天然記念物に指定されました。その当時は33羽しか見られませんでした。手厚い保護のおかげで、現在は1,500羽ほどになっています。しかし、繁殖する場所があまりなくて、地域によっては飽和状態のようです。いつか、本州でも繁殖するかもしれません。</p>	<p>2月</p>  <p>ヤマセミ 撮影：神奈川県 相模原市</p> <p>海岸から低山の河川、湖沼などに一年中生息し、停空飛行をしては魚類を捕ります。カワセミの仲間ですが、体はずっと大きく、白黒模様が美しく、冠羽が特徴的です。警戒心が非常に強く、溪流などで出会っても「ケツ」と鳴いてすぐに飛び去り、なかなかジックリは観察できません。左の鳥はキセキレイ。</p>	<p>3月</p>  <p>コゲラ 撮影：東京都 府中市</p> <p>ほぼ全国に一年を通して生息している、日本のキツツキ類ではいちばん小さな鳥です。枯れ木を突いて中にいる昆虫類の幼虫などを捕ったり、樹上でクモ類を捕ったりしますが、花の蜜は好物で、春先にはサクラの花によくやって来ます。花にくちばしを差し込み、長い舌で器用に花蜜をなめます。</p>	<p>4月</p>  <p>クロツラヘラサギ 撮影：沖縄県 与那国</p> <p>世界に3,400羽ほどしかいないと言われていた世界的な希少種で、日本にはこのうちの100羽ほどが渡来していて、近年は増加傾向にあります。長い嘴の先の方は平べったく広がっていて、しゃもじのような形をしています。その先端を水に浸けて左右に忙しく振り、小魚やカニなどの甲殻類を採食します。</p>
<p>5月</p>  <p>フクロウ 撮影：〇〇県 〇〇市</p> <p>北海道から九州に一年中生息し、弘前市の広大なリンゴ畑が広がる地域には、リンゴの古木に空いた樹洞で子育てするものが多く、たくさんフクロウが生息しています。リンゴの木の皮や根などを食べるネズミが主食なので、リンゴ農家からは大切にされていて、リンゴの花が咲くころに雛が巣立ちます。</p>	<p>6月</p>  <p>ホオアカ 撮影：〇〇県 〇〇市</p> <p>ホオジロの仲間、頬の部分が赤褐色をしていることから名付けられました。漂鳥として九州以北の草原に生息し、初夏の頃に草丈の高い場所に止まって「チョッ チイチイ」などと、わりと単純な声でさえずります。黄色い花が美しいニッコウキスゲは格好のソングポストで、よく縄張り宣言をしています。</p>	<p>7月</p>  <p>カルガモ 撮影：〇〇県 〇〇市</p> <p>全国に一年中生息しています。子沢山で、多いときには12個もの卵を産みますが、全部が無事に育つことはほとんどないようです。このヒナも6羽ですから、もしかしたらカラスなどに襲われてしまったのかもしれませんが。小さな池から、より安全な場所を目指す、有名なカルガモ親子の引越しです。</p>	<p>8月</p>  <p>ケイマフリ 撮影：〇〇県 〇〇市</p> <p>東北地方以北では一年中生息し、それより南では冬だけで、繁殖中以外は海上生活なので、姿を見る機会は多くはありません。アイヌ語で脚を「ケマ」、赤色を「フレ」と言い、「脚の赤い鳥」という、見たそのままの名前です。岩の上で休んでいるときも、海上を飛んでいるときも赤い脚がよく目立ちます。</p>
<p>9月</p>  <p>ノビタキ 撮影：〇〇県 〇〇市</p> <p>中部地方の山地と、北海道の草原で繁殖する夏鳥です。おそらく、信州の高原で繁殖した個体が、越冬地の南アジアへ向かう頃がそろそろ近付いてきて、中央アルプスの裾野に広がる蕎麦畑で一休みしているのでしょうか。夏羽のはっきりした羽色とは違い、地味になった冬羽は鮮やかな赤花の蕎麦畑に似合います。</p>	<p>10月</p>  <p>アオゲラ 撮影：東京都 調布市</p> <p>本州から屋久島までの、平地から山地の林に一年中生息し、東京では都心近くの公園でも繁殖しています。キツツキの仲間として、普段は木を突いて中にいる昆虫の幼虫などを食べていますが、秋から冬にかけては木の実もよく食べます。特に、ミズキの実は大好物のようで、実った木によくやって来ます。</p>	<p>11月</p>  <p>アトリ 撮影：〇〇県 〇〇市</p> <p>ほぼ全国に見られる冬鳥ですが、その渡来数は年によって大きく違い、多い年には数十万羽もの大群を見られることがあります。初冬の頃にはよく樹上において、木の実の種子を食べています。このキミズミの木にも群れでやって来て、実を一粒くわえりと、器用に果肉を捨てて、中の種子を食べています。</p>	<p>12月</p>  <p>コハクチョウ 撮影：〇〇県 〇〇市</p> <p>冬鳥として9～10月頃にサハリン経由で北海道北部に渡来し、その後本州の越冬地へ南下します。越冬地では湖沼や河川などをねぐらとし、日が昇ると家族単位で水田などの採食場へ飛び立ちます。この写真のように数家族が集まって群れになり、移動することも少なくありません。頭部が灰色の個体は若鳥。</p>